

第 4 回

全国果樹技術・経営コンクール

受賞者の概要

主 催 全 国 農 業 協 同 組 合 中 央 会
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会
日 本 園 芸 農 業 協 同 組 合 連 合 会
全 国 果 樹 研 究 連 合 会
財 団 法 人 中 央 果 実 生 産 出 荷 安 定 基 金 協 会

後 援 農 林 水 産 省
全 国 新 聞 情 報 農 業 協 同 組 合 連 合 会

協 賛 青 果 物 選 果 予 冷 施 設 協 議 会

第4回果樹技術・経営コンクール表彰者

農林水産大臣賞

青森県 相馬司幸
愛知県 久松良治
鳥取県 赤井富雄
長崎県 ことのうみ農協柑橘部会琴海部会ハウスみかん研究部

農林水産省生産局長賞

北海道 浜田英彰
長野県 ちくま農協ぶどう部会
山梨県 巨摩野農協落合支所果実部会果樹研究部
三重県 橋本要一
大阪府 中村弘道
和歌山県 山本茂

全国農業協同組合中央会会長賞

岩手県 山口弘
和歌山県 JA ながみね下津びわ部会

全国農業協同組合連合会会長賞

静岡県 内山勝美
大分県 安心院町ぶどう部会研究部

日本園芸農業協同組合連合会会長賞

愛媛県 東予園芸うめ部会
福岡県 吉留章

全国果樹研究連合会会長賞

山梨県 近藤友文
熊本県 田上文夫

(財)中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

山形県 山口甫明
香川県 長友寛

全国果樹技術・経営コンクール実行委員長特別賞

神奈川県 鈴木裕章
佐賀県 伊万里市うめ部会

農林水産大臣賞

○青森県 そうましこう
相馬司幸

住所 青森県弘前市大字大沢字村元35-1

経営面積3.8haのりんご専業経営で、早くから取組んできた「わい化栽培」は、現在経営面積の70%を占め、台木の選択や低樹高仕立法の工夫により、園地の作業性と良品多収の生産性は県平均を大きく上回っている。

特に、水田を転換して実施しているわい化低樹高栽培は、整然とした樹列、土壌管理、仕立法等で県内外の関心と呼び、県内有数のモデル園として技術の普及と産地の意欲の向上に貢献した。

また、全園地の無袋化、マメコバチ利用の受粉、薬剤摘果、早・中・晩の多様な品種構成により資材の節減と作業の分散を図る等、家族経営で高所得を実現している。

販売面では、50%を農協に、他をスーパー及び宅配に振り向けており、バランスの取れた安定販売が図られている。

○愛知県 ひさまつりょうじ
久松良治

住所 愛知県知多郡美浜町大字河和字北屋敷3

果樹経営面積は1.5haであり、そのうちH7年にUターン就農して逐次拡大してきたハウスみかんが80aと県下有数の大規模経営となっている。

加温時期により作型を細かく分け、ハウスみかんの労力を分散するとともに、7月上旬から10月下旬までの長期出荷を行っている。

灌水量の抑制、長期樹上着果、適時の加温、樹勢維持のための地力増進等により、高糖度(13度以上)、紅色果の高単収(5t以上)安定生産を実現しているほか、粘着トラップ、防虫網による省農薬防除を実践している。また、自主的な青年研究組織である同志会では栽培技術や経営分析能力の向上に努め、「みはまっこ」ブランドの向上や観光地での直売に貢献する等、氏は若手のリーダーとなっている。なお、露地みかん70aは、両親が分担管理し、税務申告上も父の経営と独立させている。

○鳥取県 ^{あかいとみお}赤井富雄

住所 鳥取県西伯郡会見町朝金1557

経営面積は2.75haであり、そのうち、なし215a、かき60aで県内有数の大規模複合果樹専業経営である。

傾斜園地の再整備や、点滴灌水施設・作業道の整備、低樹高化等により、SSや乗用型モアを使った機械化作業体型を確立している。また、河川敷刈草等による地力増強、新品種の早期導入と品種分散、ハウス・網掛けによる無袋と露地の組み合わせ、かきのみつばち交配と摘果の徹底による収量向上により、省力化と長期出荷(8月～12月)を実現している。

特に、JA、県園試等と連携して、簡易網掛け小袋1回掛け栽培により高糖度の新品種「ゴールド二十世紀」を「あいみ燦ゴールド」として特産ブランド化し、産地の活性化に貢献している。また、柿で平棚栽培を導入し、低樹高化を実現した。

経営管理面でも一早くパソコン簿記に取組み、鳥取大学の指導の下、地域ぐるみで分析・改善を図る等、技術・経営のモデルとなっている。

○長崎県 ^{のうきょうきょうどうくみあいかんきつがいかんかいぶかい}ことのうみ農業協同組合柑橘部会琴海部会 ^{けんきゅうぶ}ハウスみかん研究部

代表者 ^{さかもと やすお}坂本 泰男

住所 長崎県西彼杵郡琴海町長浦郷2756-1

現在の会員農家数は51戸、ハウス面積は14.4haで、14年度の出荷額は4億6800万円と琴海町の農業粗生産額の1/4を占める。

昭和58年に8戸で発足し、家族ぐるみの技術習得・情報収集、出荷販売一元化を目指した活動により、全国的にハウスみかんの産地規模が縮小するなか、当地域は新規参入や後継者の確保、面積拡大が続いている。新品種は苗木からハウス栽培し、品質と収量を市況に応じてコントロールする等変化への順応性が高く、全期間を通じて糖度12度以上、単収は平均5.5t(売上約300万円)と高水準で安定した技術を維持している。

県内初の光センサー選果機の設置と農家管理台帳のシステム化、夜間防除も可能な常温煙霧機や停電時温度管理システムの導入、防虫トラップ大量設置、地元堆肥、客土の計画的投入等園地管理の高位平準化と、「長崎味ロマン」というブランドの基準遵守を図っているが、世代間協調により大きな効果が得られている。

また、ハウスみかんの活気は、もも、アスパラ等の施設化や新規露地作物の導入、共販率の向上等地域農業の活性化にも貢献している。

農林水産省生産局長賞

○北海道 ^{はまだ ひであき}
浜田 英彰

住所 北海道有珠郡壮瞥町滝之町358番地

経営面積は9ha、うち、りんご3.5ha、おうとう3.3ha、ぶどう1.2haの他、なし、もも、プルーン等大規模観光果樹園経営である。

昭和40年代後半から道内で最初に開園し、現在、年間1万5千人の入り込み客と宅配を含む直売で全量を販売している。

早くから、フェロモントラップ利用の発生予察や複合交信攪乱剤利用に取組み、道内随一の減農薬栽培を実現した。みつばちによる受粉、薬剤摘果等各種省力化技術の実践を図る他、「ハウスの導入による安定生産」等技術面でも特徴のある取組みを行っている。

また、昭和62年から、青年農業者と「くだもの村」を設立し、初代村長として集客活動を行う他、旅行代理店との提携による外国人客、修学旅行生の誘致、小学生の収穫体験や現地学習等の食農教育にも積極的に参画している。

○長野県 ^{のうぎょうきょうどうくみあい} ^{ぶかい}
ちくま農業協同組合 ぶどう部会

代表者 ^{さかい たかよし}
酒井 隆義

住所 長野県更埴市鋳物師屋200番地

部会参加農家数は603戸、対象となるぶどう園面積は182haである。果樹栽培の適地としてりんご、もも、あんず等の産地でもあり、平成13年度の出荷額は果樹全体で19億7000万円、うちぶどうが8億6000万円と果樹振興の中心となっている。

平成6年以来、合併農協の中で部会として一本化されて以来、主力の「巨峰」を中心に地域品質差を無くすため、講習会、共同作業等活発な活動を行っている。その中でウイルスフリー樹への転換による高品質安定生産、土壌分析による独自有機肥料の開発等環境に優しい栽培法、房作り等の省力化技術への取組み、房型の改善と統一、当日朝切り出荷の実施等市場の高評価を得た流通販売面の取組みも行い、全国各産地にも広がる等の実績を有している。

○山梨県 こまののうきょうおちあいししよかじつぶかい 巨摩野農協落合支所果実部会 かじゅけんきゅうぶ 果樹研究部

代表者 あつししば 厚芝 ちゅうじ 忠二

住所 山梨県中巨摩郡甲西町落合1374-1

研究部参加農家数は290戸であるが、うち専業農家は140戸で参加農家の48%を占めており、専業農家の果樹経営面積は平均で1.1haとなっている。集団活動の対象となるすももの栽培面積は100ha、平成13年度の出荷額は、2億6500万円となっている。

昭和25年の組織設立以来、系統選抜や交配育種による優良品種の育成、新品種の先駆的導入や人工受粉等新しい栽培技術の導入と普及により、全国有数のすももの高品質果実生産を実現し、高値取引を確保する等の実績を上げてきている。

特に、大玉で高糖度の優良品種である貴陽の育成と栽培体型の確立に当たっては、部会が中心となって結実の安定化や裂果対策、棚栽培化に取り組み、希望農家を集め、栽培技術を指導して面積の拡大を図る等大きな貢献をしてきている。

○三重県 はしもと 橋本 よういち 要一

住所 三重県南牟婁郡紀宝町井田2204

経営面積は3.3haで、柑橘の大規模専作経営であり、品種は、極早生温州2.3ha、セミノール1.0haに特化している。就農当時、親から引き継いだ80aに、隣接した市町村の基盤整備された農地を新たに取得し、経営規模の拡大を図ってきている。

基盤整備された園地を活用してSS等による防除の省力化や高品質化のための極早生のマルチ栽培に取り組む等高品質安定生産を実現している。

取得した農地は、レキが多く地力に乏しいため、10a当たり30tもの客土を行うとともに、バーク堆肥を投入する等土作りに力を注いで高単収を実現している。

元農協の営農指導員として、環境に優しいみかん作りのため、草生栽培とその後のマルチ被覆等の普及にも取り組んでいる。

○大阪府 なかむら 中村 ひろみち 弘道

住所 大阪府大阪狭山市大野中446番地

経営面積は55aで、ぶどうの施設栽培専作経営である。品種は、地域特産であるデラウェア20aの他、自ら交配し、育成したオリジナル品種等10数種の栽培も行う等、消費者ニーズに合った多種類のぶどう生産を実践している。

防除では常温煙霧機を活用している他、アーチ型ハウス等本格的施設を取り入れ、省力化できる部分の省力化と、きめ細かな管理により高品質ぶどう生産を目指している。

販売は、直売所のほか、販路開拓を進め、約千人の顧客を管理する等全量を直売している。

地域でも新しい技術の紹介や情報の提供を積極的に行う他、小学生のぶどう栽培教室を開催する等地域農業の理解促進にも活躍している。

○和歌山県 やまもと 山本 しげる 茂

住所 和歌山県日高郡南部川村清川3557

経営面積は3.95ha、うち、うめは3.2ha、温州みかん60a、ハウスみかん15aのうめ、温州みかん複合の大規模果樹経営である。

うめの品種は南高うめが220a、小粒南高10a、在来種40aで南高以外は受粉樹として栽培している。

経営規模の拡大のため、樹園地の開発と園地の基盤整備による緩傾斜地化を進め、作業性の向上を図る他、園の大部分にスプリンクラーを導入して省力化を図っている。

また、圧縮空気による深耕機で土壌の理化学性を改善する他、バーク堆肥の施用による土作りときめ細かな剪定技術ともあいまって商品性の高い3Lの大玉果生産を実現している。

みかん経営では、いち早く全園のマルチ栽培に取組み、糖度12度以上の「味一みかん」を生産している。

また、地域の優秀なリーダーとして、整枝剪定、土作り、肥培管理等地域の栽培技術の向上に大きく貢献している。

全国農業協同組合中央会会長賞

○岩手県 ^{やまぐち} 山口 ^{ひろし} 弘

住所 岩手県盛岡市猪去藤松7

経営面積は1.9ha、うち、りんご1.78haの他、ブルーベリー、プルーンを少々栽培している。

土作りを重視し、堆肥生産施設に稲わらを提供し、堆肥を園地に還元している他、病害虫の早期発見により、減農薬栽培を実現している。

家族間の作業分担により、効率的に作業を進め、雇用を入れずにコストを意識した経営を行う他、剪定や誘引、枝吊りによる高品質果実生産に努めている。

また、販売は、早生、中生品種は系統を利用、晩生品種は個人客の贈答用としての販売等、経営の安定化が図られている他、地域活動においても、わい化栽培の研究会において、若い生産者に対する助言指導等を行う等積極的な活動を行っている。

○和歌山県 JA ^{しもつ} ながみね ^{ぶかい} 下津びわ部会

代表者 ^{さかぐち} 坂口 ^{じょうじ} 丈治

住所 和歌山県海草郡下津町下225

参加戸数は178戸で、びわ栽培面積は41ha、平成13年度の出荷額は、2億400万円となっている。

「味にこだわったびわ作り」をモットーに、省力化のための低木化栽培の推進、寒害対策、産地に適合する優良系統品種の選抜、導入、品質の平準化のため、独自肥料を作る等生産技術の高位平準化による安定多収生産対策等に取り組んでいる。

また、コープ神戸との協議により、園地登録の上、栽培管理を行い、減農薬栽培商品として有利な販売も行っている。

女性を中心とした販売活動で、店頭での試食販売、顧客調査を行う他、糖度の高い小玉の袋詰等個性化商品の開発による販売促進活動も行っている。

地域の中では、かんきつ類との複合作目の柱として経営の安定と所得の向上に貢献している。

全国農業協同組合連合会会長賞

○静岡県 ^{うちやま}内山 ^{かつみ}勝美

住所 静岡県引佐郡引佐町三岳310

経営面積は2.68haで、みかん専作経営である。品種は、高林早生25a、興津早生30a、青島温州213aとなっており、市場評価の高い品種へ計画的に改植し、その際、自らのパワーシャベル等により、傾斜地の緩傾斜化や園内道等基盤整備を行い、大苗育苗を取り入れる等省力化技術を積極的に導入している。また、農協の園地流動化制度を活用して、農地の取得と借地を行う等規模拡大を行っている。

水分コントロールのためのマルチ栽培に早くから取組むとともに、樹冠上部摘果により3L以上の大玉排除や光センサーに対応した高品質果実の連年安定生産を実現している。

また、貯蔵庫を長期貯蔵に耐える構造に改造し、10月から3月までの長期間の計画出荷を行っている。こうした高い技術は地域に波及し産地のレベルアップに貢献している。

○大分県 ^{あしむちやうのうきやう}安心院町農協 ^{ぶかいけんきゆうぶ}ぶどう部会研究部

代表者 ^{おの}小野 ^{つぎのぶ}次信

住所 大分県宇佐郡安心院町大字下毛2186-1

参加農家数は37戸で、対象となる果樹園面積は11.6ha、ぶどうのうちピオーネの平成13年度の出荷額は6000万円となっている。

国営の開拓パイロット事業によって造成されたぶどう団地の中で、平成元年以来、大粒種ピオーネの無核栽培の技術向上、安定生産に取り組んできた。

特に、7月から8月上旬にかけて収穫される加温ハウスの作型は、中元商品として高単価で取引されるため、この時期の販売量確保に重点をおいて技術確立に努めてきている。

また、加温ハウスで樹勢低下防止のための堆肥の全面施用や短梢整枝技術の確立普及、枝梢管理、果房管理技術に意欲的に取り組み、現地実証を行い、技術改善を行い高品質安定生産につなげている。

日本園芸農業協同組合連合会会長賞

○愛媛県 JA東予園芸^{とうよえんげい}うめ^{ぶかい}部会

代表者 徳永^{とくなが} 求^{もとむ}

住所 愛媛県周桑郡丹原町大字今井431

参加農家数は556戸であり、対象となるうめ栽培面積は、95haで平成13年度の出荷額は、1億700万円となっている。

JA東予園芸は3市3町に亘る広域専門農協であり、かんきつの価格低迷などから平成2年から新規に栽培を始めた。

先進地調査を行う一方、独自の優良苗の育苗、基本的な整枝剪定指導、受粉樹とみつばちの導入等安定生産技術の確立に取り組んできた。

また、うめ加工技術の確立のため、加工工程のマニュアル化、選果機、加工施設の導入、加工製品の独自開発に取り組み、所得の安定を確保してきた。

こうした取組により、約10年の間に栽培技術を確立し、一次加工技術を整え、新しい一大産地を形成している。

○福岡県 吉留^{よしとめ} 章^{あきら}

住所 福岡県糸島郡志摩町稻留418

経営面積は1.9ha、うち、温州みかん70a、露地の中晩柑96a、ハウスみかん24aのみかん中心の経営である。

根域制限による高畝マルチ栽培やハウス栽培を取り入れるとともに、いち早く清見、天草等市場評価の高い品種を高接ぎにより導入する他、中晩柑の早期摘果等高度技術の導入により高品質果実生産を行っており、安定した経営を実現している。

10月の極早生から年明けの甘夏まで労力の配分を考えた作型を計画的に導入する他、低樹高化や作業道の確保により、省力化を図るとともに、過剰投資を抑え、効率的な経営を行い、高い所得率を確保している。

時代の要請にあった品質重視の経営が地域の共感を得るとともに、下級品の直接販売等により、販売ロスの低減を図る他、かんきつ部会長としても活躍している。

全国果樹研究連合会会長賞

○山梨県 こんどう ともり
近藤 友文

住所 山梨県韮崎市穂坂町三ツ沢 2 2 4 0

経営面積は 1. 4 5 ha、うち、露地ぶどうが 1. 1 5 ha、ぶどう雨よけ栽培が 2 4 a、おうとう 3 a である。

早生種のデラウェアから晩生種の甲州まで 2 3 品種のぶどうとおうとう栽培を行い、消費者の多様なニーズに対応するとともに、農協系統販売と直売や宅配、観光果樹園により安定した販売を行っている。

雨よけ施設を整備し、農薬の使用節減を図っている他、SS を共同購入して計画利用を図る等、生産経費の削減に努め、省力低コスト生産を実現している。

また、直売所の開設の他、おうとうの観光農園にも取り組み、IT を活用して消費者との情報交換に努める他、高級リゾート地のペンションと連携する等特徴的な経営を行っており、こうした取り組みが穂坂地域の活性化にもつながっている。

○熊本県 たのうえ ふみお
田上 文夫

住所 熊本県水俣市月浦 8 7

経営面積は 1. 5 8 ha、うち施設デコポンが 4 8 a、露地デコポンが 4 0 a、河内晩柑が 5 0 a、温州みかんが 2 0 a となっている。

県内で最初に施設栽培の不知火を導入し、光センサー合格率向上のため、垣根仕立てによる整枝、IT 技術を活用したきめ細かな温度管理、土壌水分計を使った水管理の徹底により、施設栽培では、単収 7 t 以上を確保する他、高品質果実の生産を実現している。

また、土壌の改善のため、土壌改良剤の活用の他、剪定枝を粉砕機にかけ、還元する等土作りの徹底を図っている。

地域においても、不知火作りの課題である樹勢維持や減酸について研究会に参加して取り組むとともに、垣根仕立て法を創意して普及させる等活発な活動を行っている。

(財) 中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

○山形県 ^{やまぐち}山口 ^{としあき}甫明

住所 山形県東置賜郡高島町大字安久津 2 5 5 8

経営面積は 1. 4 ha で、ぶどうの専作経営であり、全てハウス又は、雨よけ施設の設置を行っている。

品種は、デラウエア 5 0 %、大粒種その他が 5 0 % で、デラウエアは、半加温、無加温のハウス栽培、雨よけ栽培と多作型化し、大粒種その他は、高尾、巨峰等多品種を組み合わせて栽培し、労力を分散し、家族労働力で賄える経営を行っている。

デラウエアについては、半加温栽培の技術確立により、7月の需要ピーク時の出荷が可能となり、収益の安定が図られた他、大粒種は多品種栽培を生かして 3色詰め合せ販売を行う等直接販売を行っている。

地域においても、半加温栽培の先駆者として指導に当たり、農協におけるデラウエアの早期出荷推進に貢献している。

香川県 ^{ながとも}長友 ^{ひろし}寛

住所 香川県綾歌郡飯山町川原 1 5 4 7 番地

経営面積は 2. 0 5 ha、うち、露地ももが 1. 7 9 ha ハウスももが 2 6 a のもも栽培専作経営である。

経営規模が大きいため、ハウスももや早晩生品種の組み合わせにより、家族労働だけの効率的な経営を行っている。

急傾斜地が中心の園地を整備し、平坦地化を進め、作業道、灌水施設を完備し、作業の効率化を図っている。

堆肥を 1 0 a 当たり 2 t 投入する等有機質主体の施肥や二重袋による果面保護、反射マルチによる着色促進、大玉生産のための着果制限等により、収益性の向上を図っている。

また、優良品種への改植、平坦地化、防風ネットの設置等に取り組み、地域への普及にも努めている。

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会委員長特別賞

○神奈川県 ^{すずき}鈴木 ^{ひろあき}裕章

住所 神奈川県小田原市石橋57

経営面積は1.8ha、うち、ハウスみかん10a、みかん80a、中晩柑40a、キウイフルーツ15a、その他35aで、ハウスみかんと露地みかんを経営の中心にしている。

ハウスみかんは、6tの単収を安定的に確保し、S～M級の高品質果実の安定生産を行う他、露地みかんでは、農協主催の差別化ブランドである「高糖度処理みかん」に積極的に参加し高評価を得ており、また、産地直販による周年的な出荷を行うため、中晩柑の中で清見、バレンシア、ネーブル、レモン、甘夏、黄金柑等多様な品種を栽培して、3月から8月にかけて収穫販売し、労力分散を図り、家族労働による効率的な作業体型を組み立てている。

また、環境を考慮した栽培管理を積極的に地域に普及し、成果を上げている。

○佐賀県 ^{いまり}伊万里市 ^{しのぎょうきょうどうくみあい}農業協同組合 ^{ぶかい}うめ部会

代表者 ^{はると}春田 ^{よしはる}義春

住所 伊万里市立花町1290番地1

参加農家数は105戸であり、うめ栽培面積は44.5ha、平成13年度の出荷額は、2,037万円である。

伊万里地区国営事業で造成された農地を対象にうめの植栽が始まり、平成8年にうめ部会が組織された。

部会では、土作り、剪定作業、協同防除等栽培管理に関する研修会等を行うとともに、選果機を導入して、熟度を揃えるため、収穫時期の指導や販売促進活動に取り組んでいる。

新しく新規作目として導入したため、情報の収集を徹底し、しっかりした営農計画の下に栽培に取り組んできており、そのため、部会員、栽培面積共に増え、市場からも高い評価が得られるようになってきている。